

**【漁況】**  
**[マアジ]**

1. 全国の漁獲量の動向（農林統計）

全国のマアジの漁獲量は、1965年の53万トン  
をピークに減少傾向となり、1980年には5  
万4千トンとなりました。

その後増加傾向に転じ、1996年には33万ト  
ンに増加し、1998年までは30万トン台で推移  
しましたが、その後再び減少傾向に転じ、20  
22年は9.9万トンとなりました。

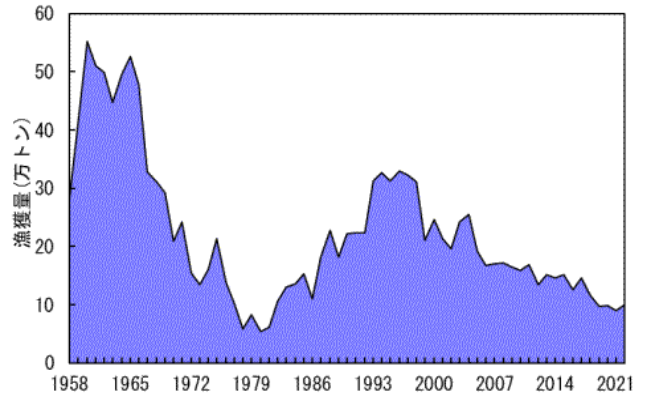


図 全国のマアジ漁獲量の推移

2. 県内の2025年1～3月期の漁況の経過

【4港計（阿久根、枕崎、山川、内之浦）】

1月～2月にかけて志布志沖で、また、2月には枕崎沖でも漁場が形成されました。銘柄別では、小・豆銘柄（1歳魚：2024年生まれ）が主に漁獲されました。

4港計のまき網では1,084トンの水揚げで、前年比54%、平年比80%でした。

3. 県内の2025年4～6月期の見とおし

漁獲主体：小銘柄以下（1歳魚：2024年生まれ）

来遊量：前年，平年並

（根拠）

漁獲主体は近年の漁獲動向から予測しました。また、来遊量は、直近の漁模様と正の関係があることから、前年，平年並になるものと考えられます。

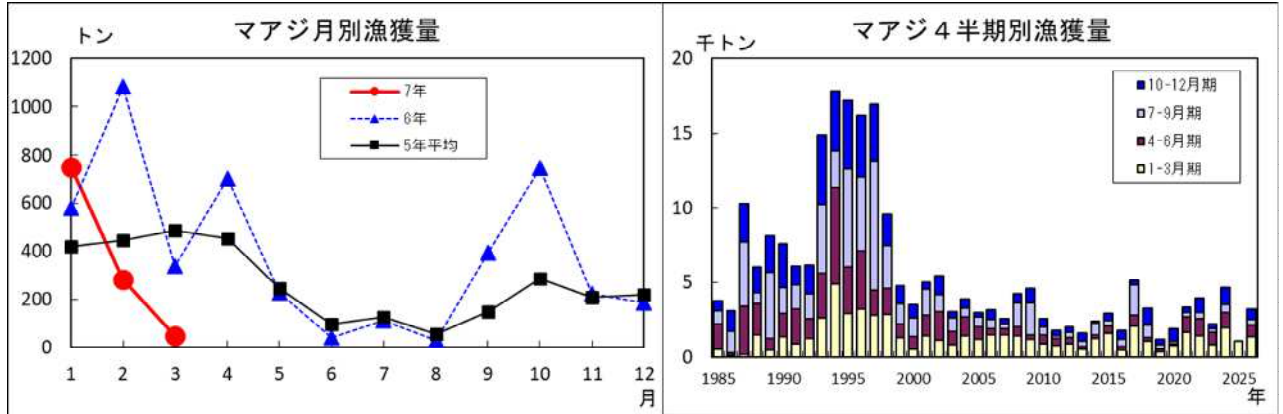


図 マアジまき網漁獲量変化（4港計）

※平年値は過去5年の平均値(AV)，2025年3月18日までの水揚げ量を使用  
(以下同じ)

## [サバ類]

### 1. 全国の漁獲量の動向（農林統計）

全国のサバ類の漁獲量は、1978年の160万トン进行ピークに年々減少し、1991年には26万トンとなりました。

1993年から増加に転じ1997年には85万トンとなりましたが、2002年には28万トンまで減少しました。

2006年に65万トンまで増加したあと減少傾向となり、2022年は32万トンとなりました。

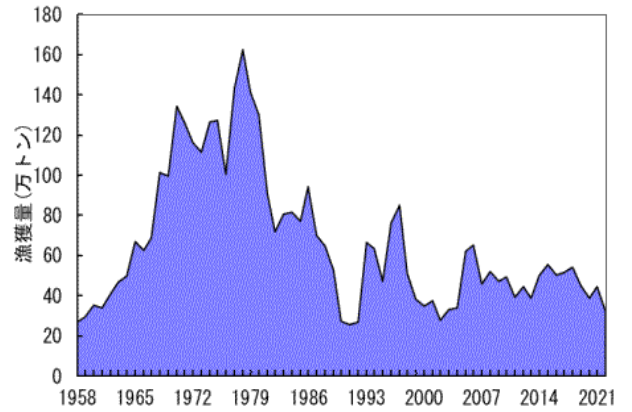


図 全国のサバ類漁獲量の推移 年

### 2. 県内の2025年1~3月期の漁況の経過

#### 【4港計（阿久根、枕崎、山川、内之浦）】

北薩海域では、2月に甑島北、串木野沖で漁場が形成されました。銘柄別では、小・豆銘柄（1歳魚：2024年生まれ）が主に漁獲されました。

薩南海域では、期間を通じて津倉瀬から馬毛島沖にかけての帯で漁場が形成されました。また、1月には志布志沖で、2月には枕崎沖及び立目崎沖でも漁場が形成されました。銘柄別では、津倉瀬から馬毛島沖にかけての帯でゴマサバ中、中小銘柄（3歳魚：2022年生まれ）が、志布志沖でゴマサバ・マサバ豆銘柄（1歳魚：2024年生まれ）が、枕崎及び立目崎沖でゴマサバ中小銘柄以下（3歳魚以下：2022年以後生まれ）が主に漁獲されました。

4港計のまき網では、2,285トンの水揚げで、前年比79%、平年比47%でした。

### 3. 県内の2025年4~6月期の見とおし

漁獲主体：ゴマサバ中銘柄（1~3歳魚：2022~2024年生まれ）

来遊量：前年，平年並

（根拠）

漁獲主体は近年の漁獲動向から予測しました。また、来遊量は、直近の漁模様と正の関係があることから、前年，平年並と考えられます。

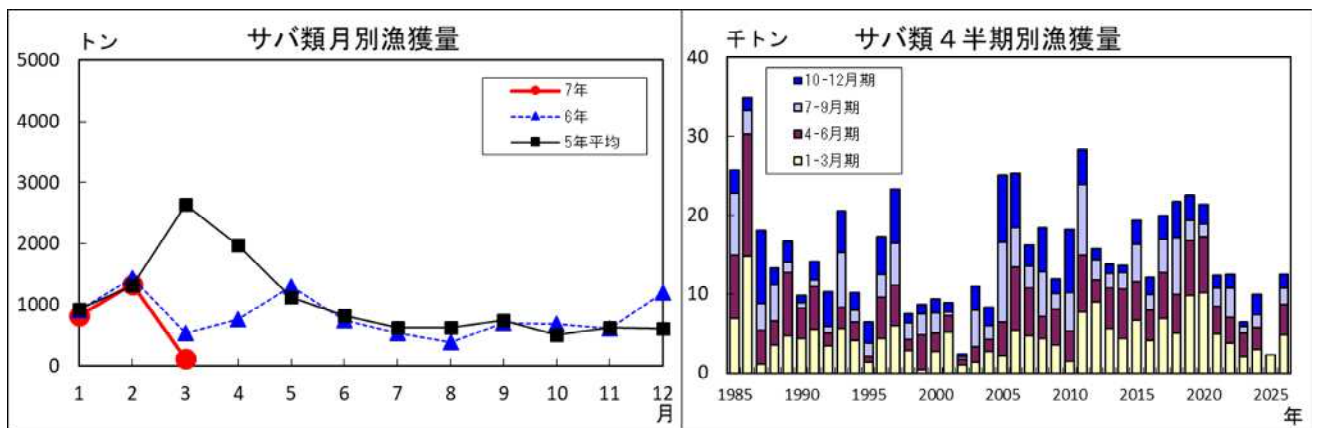


図 サバ類まき網漁獲量変化（4港計）

# [マイワシ]

## 1. 全国の漁獲量の動向（農林統計）

全国のマイワシの漁獲量は、1950年代から1960年代にかけての不漁期の後、1973年頃から増加の傾向が見られ、1988年には449万トンまで増加しました。

1989年以降、全国的に漁獲量は減少を続け、2002～10年までは、10万トンを下回る低い水準で推移していましたが、2011年以降は10万トン以上に増加しました。

さらに、2013年以降は20万トンを超える漁獲が続き、2022年は64万2千トンとなりました。

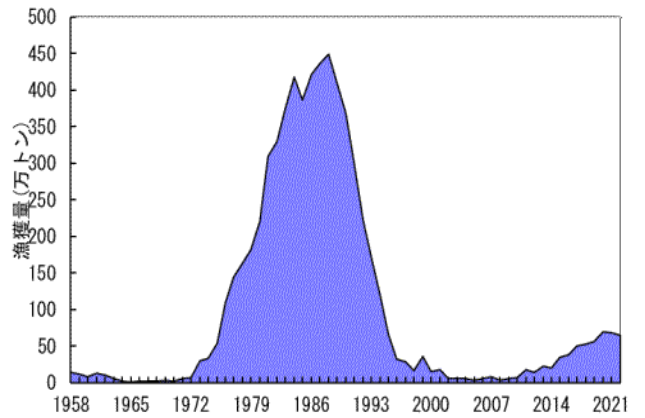


図 全国のマイワシ漁獲量の推移

年

## 2. 県内の2025年1～3月期の漁況の経過

### 【4港計（阿久根、枕崎、山川、内之浦）】

北薩海域のまき網では、2～3月に縄瀬，甑東，串木野沖で漁場が形成されました。

薩南海域のまき網では、2～3月に開聞沖，立目崎，枕崎沖で漁場が形成されました。

4港計のまき網では、中～大羽（1～3歳魚：2022～2024年生まれ）主体に3,914トンの水揚げで、前年比83%，平年比288%でした。

北薩海域の棒受網では、中～大羽（1～3歳魚：2022～2024年生まれ）主体に101トンの水揚げで、前年比201%，平年比883%でした。

## 3. 県内の2025年4～6月期の見とおし

漁獲主体：4～5月は中～大羽（1～3歳魚：2022～2024年生まれ）主体で、5月以降は小羽（0歳魚：2025年生まれ）主体

来遊量：前年並で、平年を上回るでしょう。

（根拠）

漁獲の主体と来遊量は、現在の漁況経過や近年の漁獲パターンから予測しました。前期の漁況を基に予測すると、今期の来遊量は前年並で、平年を上回ると考えられます。

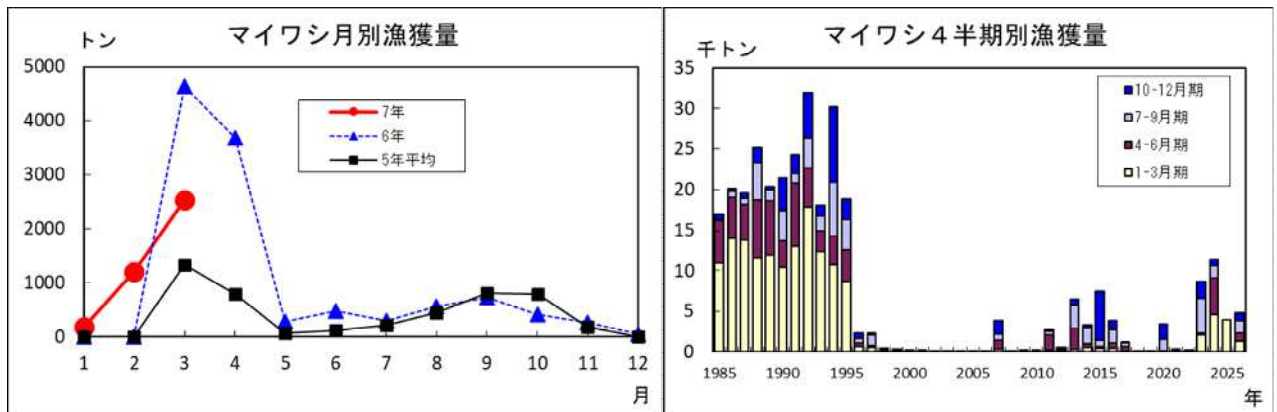


図 マイワシまき網漁獲量変化（4港計）

# [ウルメイワシ]

## 1. 全国の漁獲量の動向（農林統計）

全国のウルメイワシの漁獲量は、1950年代以降、増減を繰り返しながらも増加傾向を示し、1994年に6万8千トンとピークを迎えた後、減少傾向に転じ2000年には2万4千トンまで減少しました。

2003年以降は再度増加傾向に転じ、2016年は9万8千トンで1958年以降では最高の漁獲量となりました。2022年の漁獲量は6万4千トンとなりました。

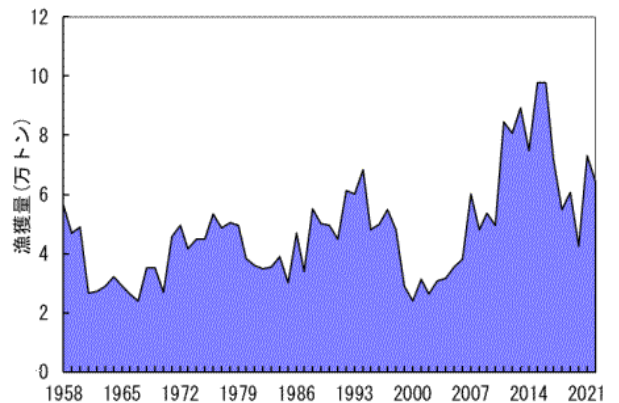


図 全国のウルメイワシ漁獲量の推移

## 2. 県内の 2025 年 1～3 月期の漁況の経過

【4 港計（阿久根、枕崎、山川、内之浦）】

北薩海域のまき網では 2 月に串木野沖に漁場が形成されました。

薩南海域のまき網では、2～3 月に枕崎沖、開聞沖に漁場が形成されました。

4 港計のまき網では、中～大羽（1 歳魚：2024 年生まれ）主体に 109 トンの水揚げで、前年の 12% 及び平年の 20% でした。

北薩海域の棒受網では、中～大羽（1 歳魚：2024 年生まれ）主体に 5 トンの水揚げで、前年の 19% 及び平年の 71% でした。

## 3. 県内の 2025 年 4～6 月期の見とおし

漁獲主体：4 月は中～大羽（1 歳魚：2024 年生まれ）で、5 月以降は小羽（0 歳魚：2025 年生まれ）

来遊量：前年を下回り、平年並でしょう。

（根拠）

漁獲の主体と来遊量は、現在の漁況経過や近年の漁獲パターンから予測しました。

前期の漁況を基に予測すると、今期の来遊量は前年を下回り、平年並と考えられます。

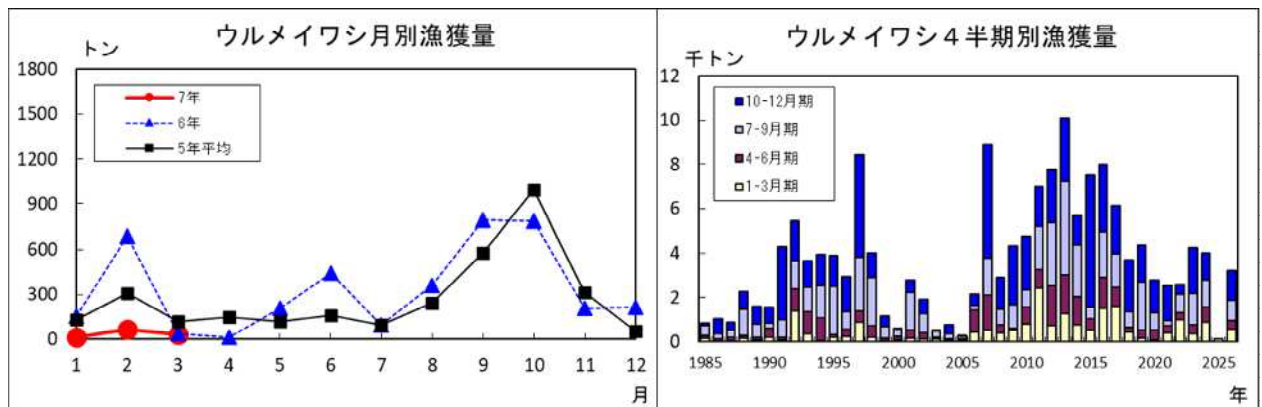


図 ウルメイワシまき網漁獲量変化（4 港計）



## [カタクチイワシ]

### 1. 全国の漁獲量の動向（農林統計）

全国のカタクチイワシの漁獲量は、1973年まで30万トン台で変動していましたが、1974年以降減少傾向となり1979年には13万トンとなりました。

その後は大きく増減を繰り返しながら増加傾向にあり、2003年は過去最高の53万5千トンとなりましたが、その後減少傾向に転じ、2022年は12万3千トンとなりました。

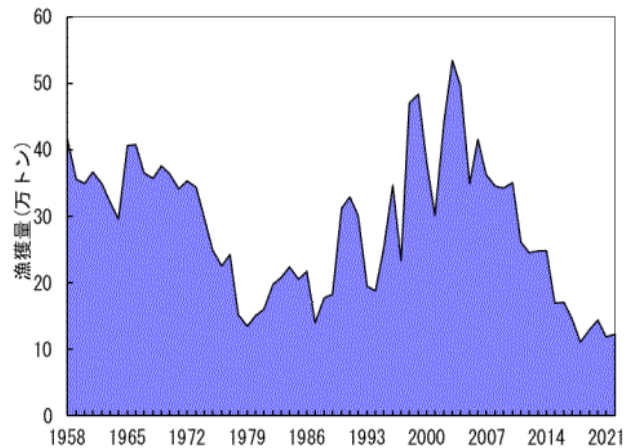


図 全国のカタクチイワシ漁獲量の推移

### 2. 県内の2025年1～3月期の漁況の経過

#### 【4港計（阿久根、枕崎、山川、内之浦）】

北薩海域のまき網では、まとまった漁場が形成されず散発的な漁獲となりました。

薩南海域では、漁場が形成されませんでした。

4港計のまき網では、中～大羽（1歳魚：2024年生まれ）主体に12トンの水揚げで、前年の138%及び平年の41%でした。

北薩海域の棒受網では、中～大羽（1歳魚：2024年生まれ）主体に2トンの水揚げで、前年の2%及び平年の3%でした。

### 3. 県内の2025年4～6月期の見とおし

漁獲主体：小～中羽（0～1歳魚：2024～2025年生まれ）

来遊量：前年，平年を下回るでしょう。

（根拠）

漁獲の主体と来遊量は、現在の漁況経過から予測しました。

前期の漁況を基に予測すると、今期の来遊量は前年，平年下回ると考えられます。

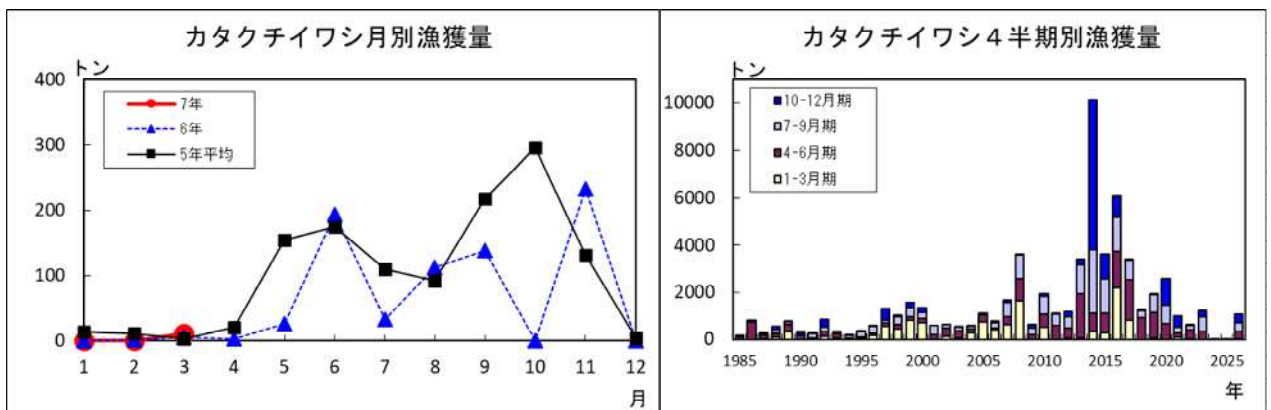


図 カタクチイワシまき網漁獲量変化（4港計）

[イワシ類参考資料]

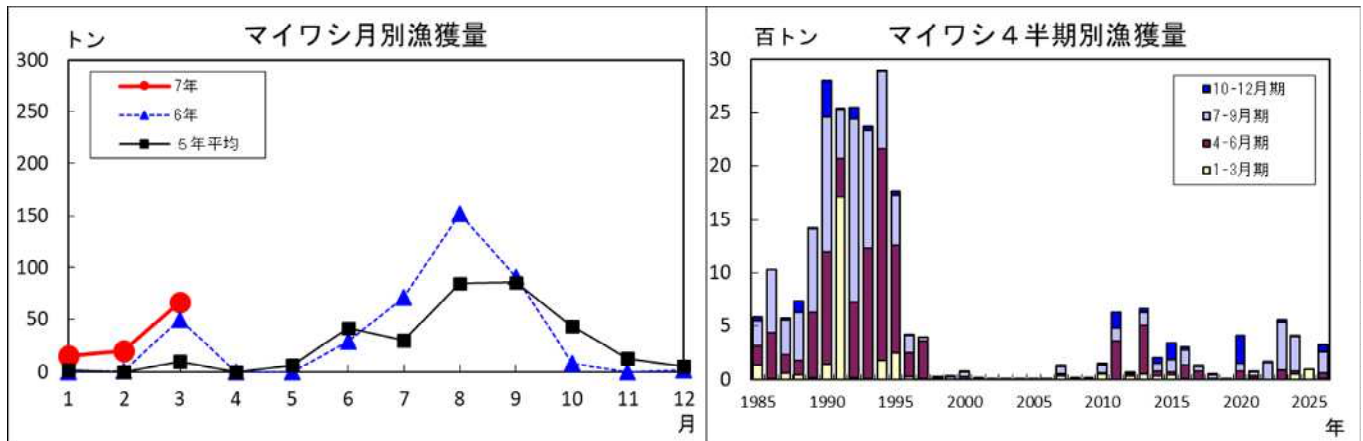


図 マイワシ棒受網漁獲量変化(阿久根港)

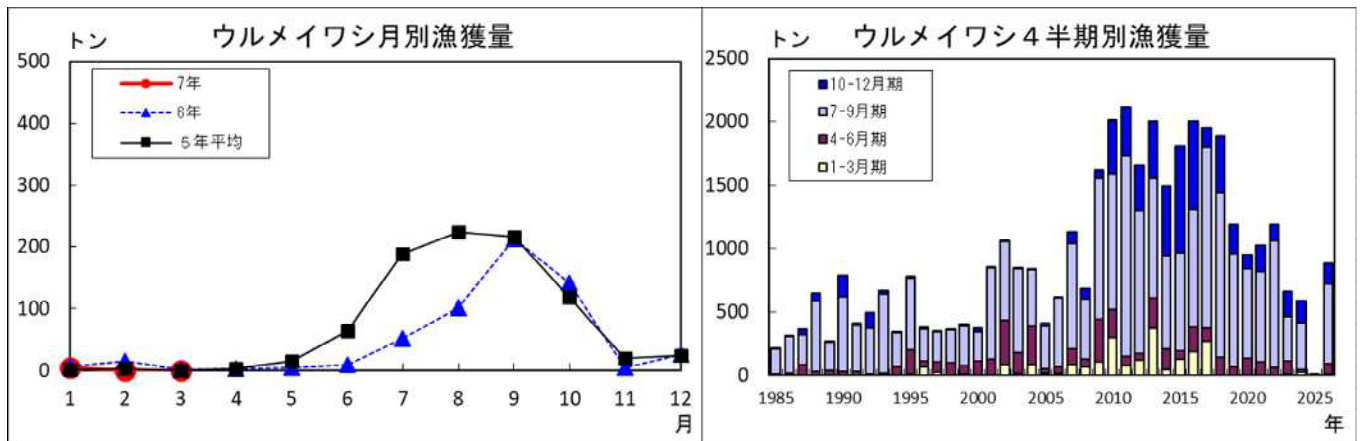


図 ウルメイワシ棒受網漁獲量変化(阿久根港)

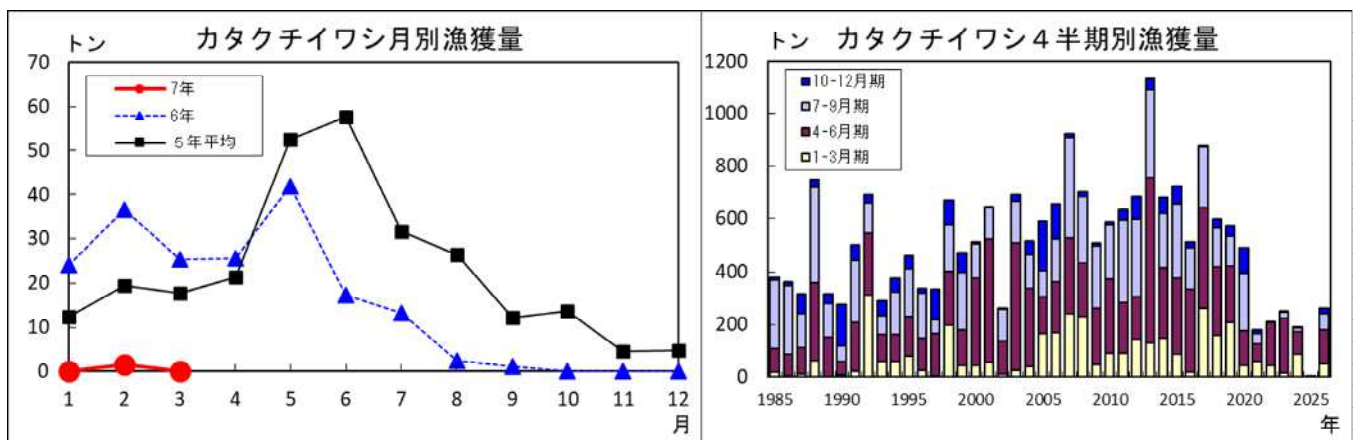


図 カタクチイワシ棒受網漁獲量変化(阿久根港)

# [シラス]

## 1. 経年経過

バッチ網漁業の漁獲量は、西薩海域では、1999年の5,450トンピークに減少傾向を示し、2002, 2003年と1,000トンを下回り低調に推移しました。その後、2004年は3,507トンと比較的好調に推移しましたが、2005年以降減少傾向を示し、2024年は91トンと過去最低の漁獲量となりました。

志布志湾海域では、2007年まで増加傾向を示しましたが、その後、1,000トン前後で増減を繰り返しながら推移し、2024年は301トンと過去最低の漁獲量となりました。

## 2. 2025年1~2月の漁況の経過

西薩海域ではまとまった水揚げがありませんでした。

志布志湾海域では、カタクチシラス・マイワシシラス主体に54.5トンの水揚げで、前年の134%、平年の137%でした。

## 3. 2025年4~6月期の見通し

漁獲の主体は、カタクチシラスでしょう。

来遊量は西薩海域は、直近の漁模様から前年(91トン)・平年(163トン)を下回ると考えられます。

志布志湾海域は、直近の漁模様から前年(40トン)並みで、平年(193トン)を下回ると考えられます。

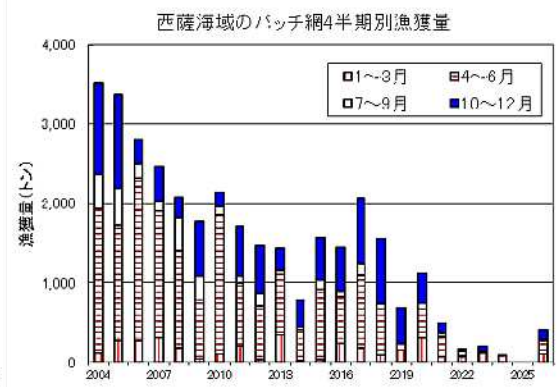
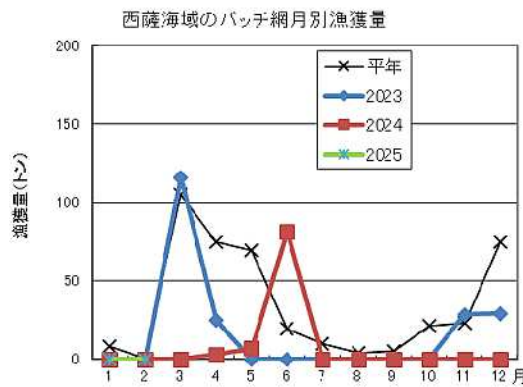
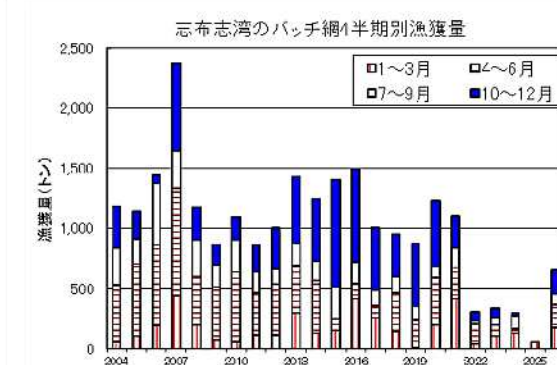
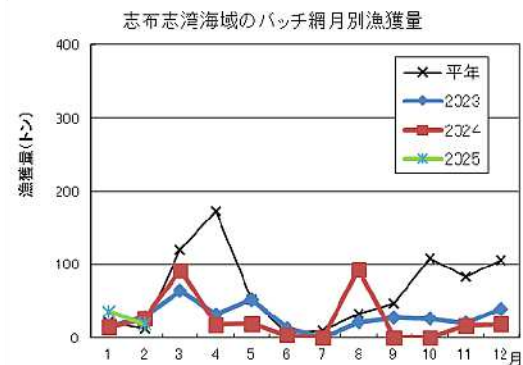


図 西薩海域バッチ網漁業の漁獲量変化(2漁協計)



志布志湾海域バッチ網漁業の漁獲量変化(2漁協計)

※平年値は過去5年の平均値(AV)の水揚量を使用

## [ムロアジ類]

〈クサヤモロ，ムロアジ，モロ（水産技術開発センター調べ：4港計）〉

### 1. 経年経過

ムロアジ類の漁獲量は、1990年の21,700トン进行ピークに急減し、1994年以降は1,500トンから5,000トンの間での推移しており、2023年は1,964トンとなりました。

### 2. 県内の2025年1～3月期の漁況の経過

1～2月にかけて種子島，屋久島の周辺海域で漁場が形成されました。銘柄別では、クサヤモロ中小・小銘柄が主に漁獲されました。

4港計のまき網では558トンの水揚げで、前年比167%，平年比102%でした。

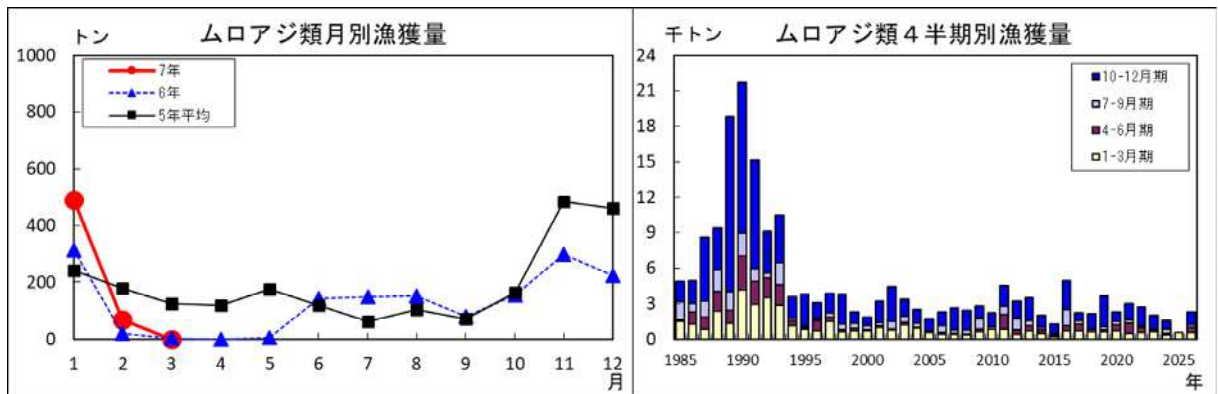


図 ムロアジ類まき網漁獲量変化(4港計)

〈オアカムロ（水産技術開発センター調べ：4港計）〉

### 1. 経年経過

オアカムロの漁獲量は、1989年の5,300トン进行ピークに一旦減少し、1995年に4,400トンと再度ピークを迎えた後は減少傾向となり、2007年には700トンとなりました。2008年に2,300トンまで増加した後は700～2,400トンの間で推移し、2023年は353トンでした。

### 2. 県内の2025年1～3月期の漁況の経過

1月に屋久島沖で漁場が形成されました。銘柄別では小銘柄が主に漁獲されました。

4港計のまき網では35トンの水揚げで、前年比108563%，平年比33%でした。

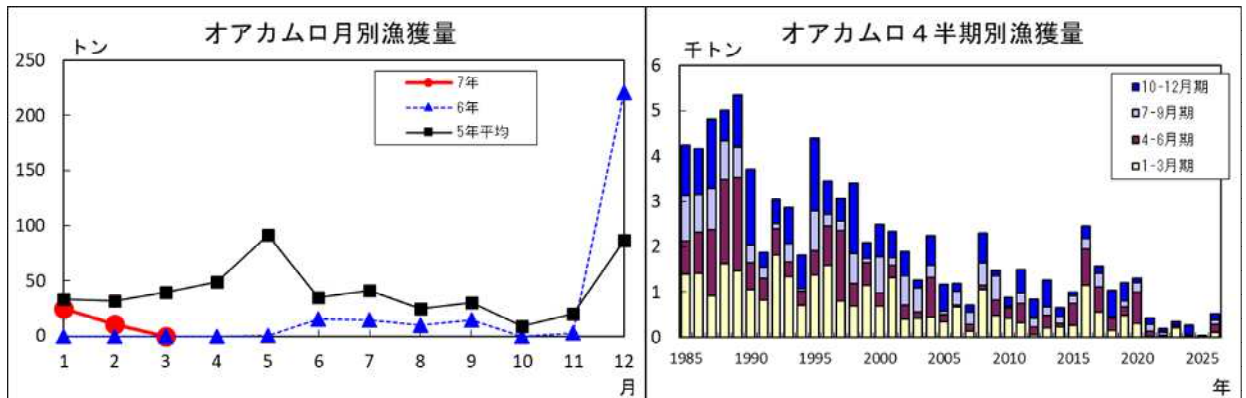


図 オアカムロまき網漁獲量変化(4港計)



## [マルアジ]

### 1. 経年経過

マルアジの漁獲量は、1987年から1989年に1,500トンを超えるピークがあり、その後低調に推移し、2000年から2003年に再度ピークを迎え2003年には3,150トンと最高を記録しましたが、2004年以降は低調に推移し、2023年は115トンとなりました。

### 2. 県内の2025年1～3月期の漁況の経過

1月に野間池沖及び志布志沖で、2月に甌島から串木野にかけての海域及び志布志沖で漁場が形成されました。銘柄別では、豆銘柄が主に漁獲されました。

4港計のまき網では484トンの水揚げで、前年比229%、平年比368%でした。

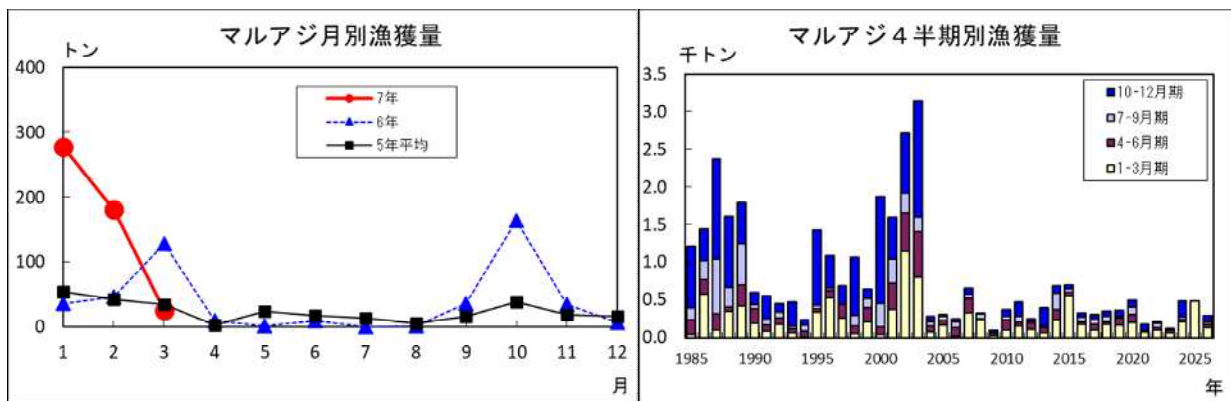


図 マルアジ（アオアジ）まき網漁獲量変化（4港計）